

詩織

第十章

疼^{うず}きの代償

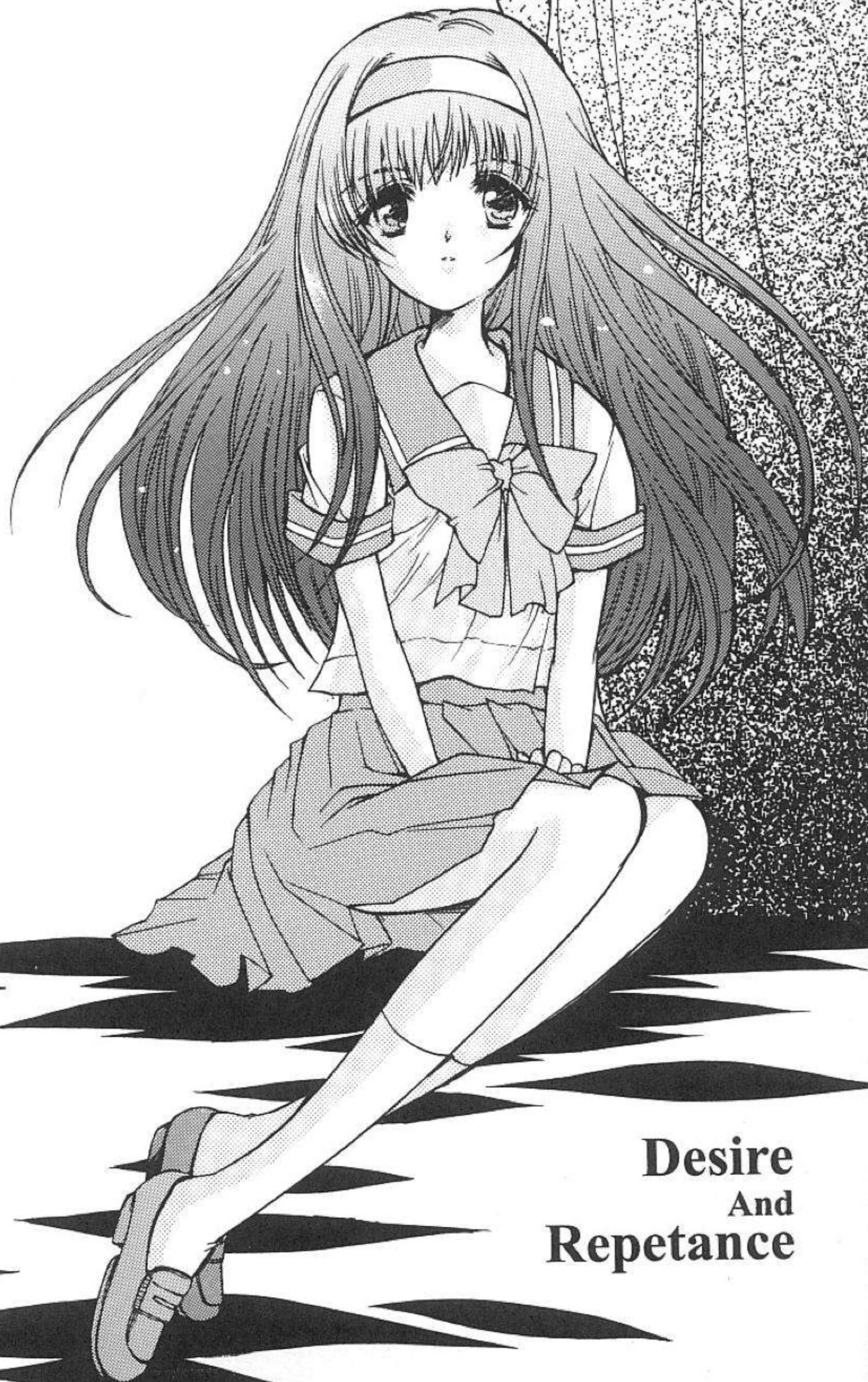
岩崎 啓真
あいざわひろし

vol. 10

詩織 第十章

うず
疼きの代償

最後に笑ったのは…いつだったんだらう。



Desire
And
Repetance

The outline of the story

私立K高校のアイドルと謳われる藤崎詩織は、ある日の放課後、冴えないクラスメート、島田雄二に全裸写真を撮られ、処女を奪われてしまう。

詩織は、抵抗するすべのないまま屋外露出・浣腸・様々な恥辱を受け、ついには悪徳教師羽黒にも凌辱されてしまう。

そして高校最後の夏休み。

思いもかけない結末を迎えた島田と岩永との3人デートの夜、岩永はカーテンの先に見える詩織の部屋に驚くべき光景を見た…



藤崎詩織

SHIORI FUJISAKI

成績優秀、スポーツにも秀でていながら、謙虚な性格で、私立K高校のアイドルと謳われる美少女。

両親を交通事故で失い、一人暮らしをしている。

だが、ある日、クラスメートの島田雄二の卑劣な罠に落ちてしまう。

成績も悪く、まともな運動などしたこともなく、クラスの中でも目立たない、どちらかというと嫌われ者の少年。土地成金だった親の遺品を整理しているときに見つけたSM雑誌でSMの魅力にとり憑かれた。島田の究極の願いは、汚れのない美しい少女を徹底的にいたぶり、汚しぬいて、自分の奴隷にすることである。



羽黒孝三

KOZO HAGURO

私立K高校の体育教師。生活指導の主任でもある。風紀にうるさく、それが理由で女生徒に嫌われている。島田の手引きにより、無惨な形で詩織を凌辱した。



島田雄二

YUJI SHIMADA



岩永芳明

YOSHIAKI IWANAGA

藤崎詩織の幼なじみでクラスメート。ハンサムだが、ワリとぼんやりした性格。演劇部所属。詩織が密かに思いをよせているが、本人は知らない。

Characters



取り戻せるかもしれない――

……きて……

本当に望んでいた時間

詩織……

岩永くん……

こんな……私の事……
嫌いになった？

お互いの名前をゆっくり呼ぶ

嫌いになるわけ
ないだろ……!!

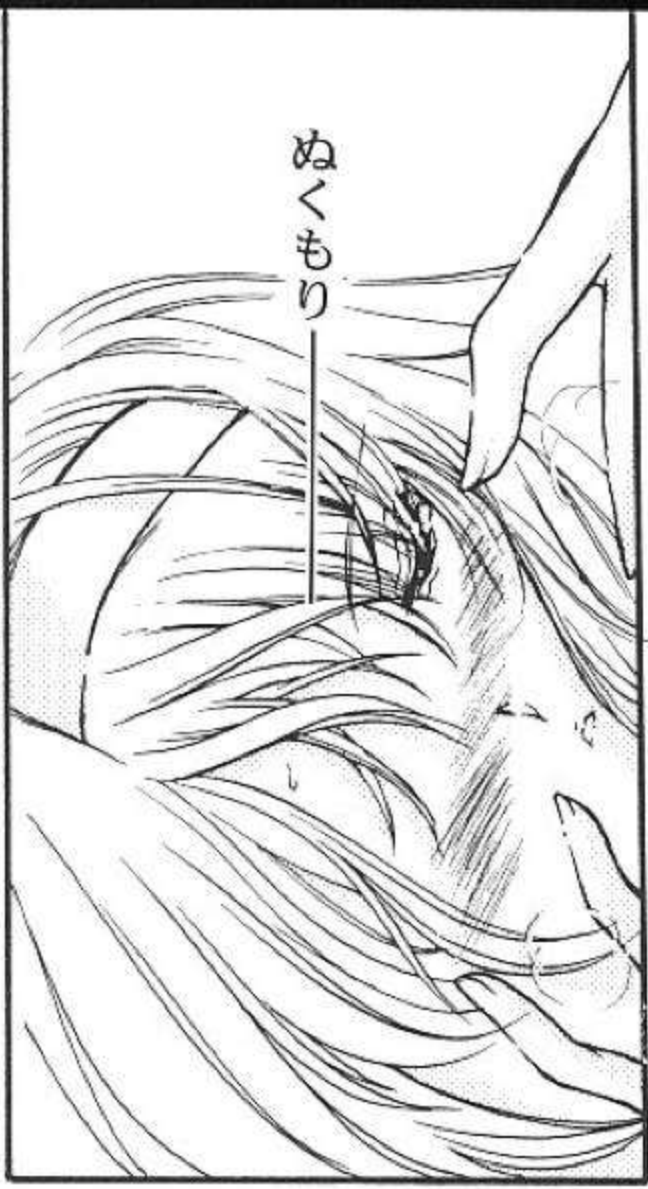
消えてしまそうなウイスパークヴォイス

ずっと……こうしたかった

ばか……っ

ずっと感じたかった

ぬくもり



詩織……っ

……あ……

こ……こ……
いい……のか……な……

あ……あれっ

あ

……そ……



だっ

……あ……!

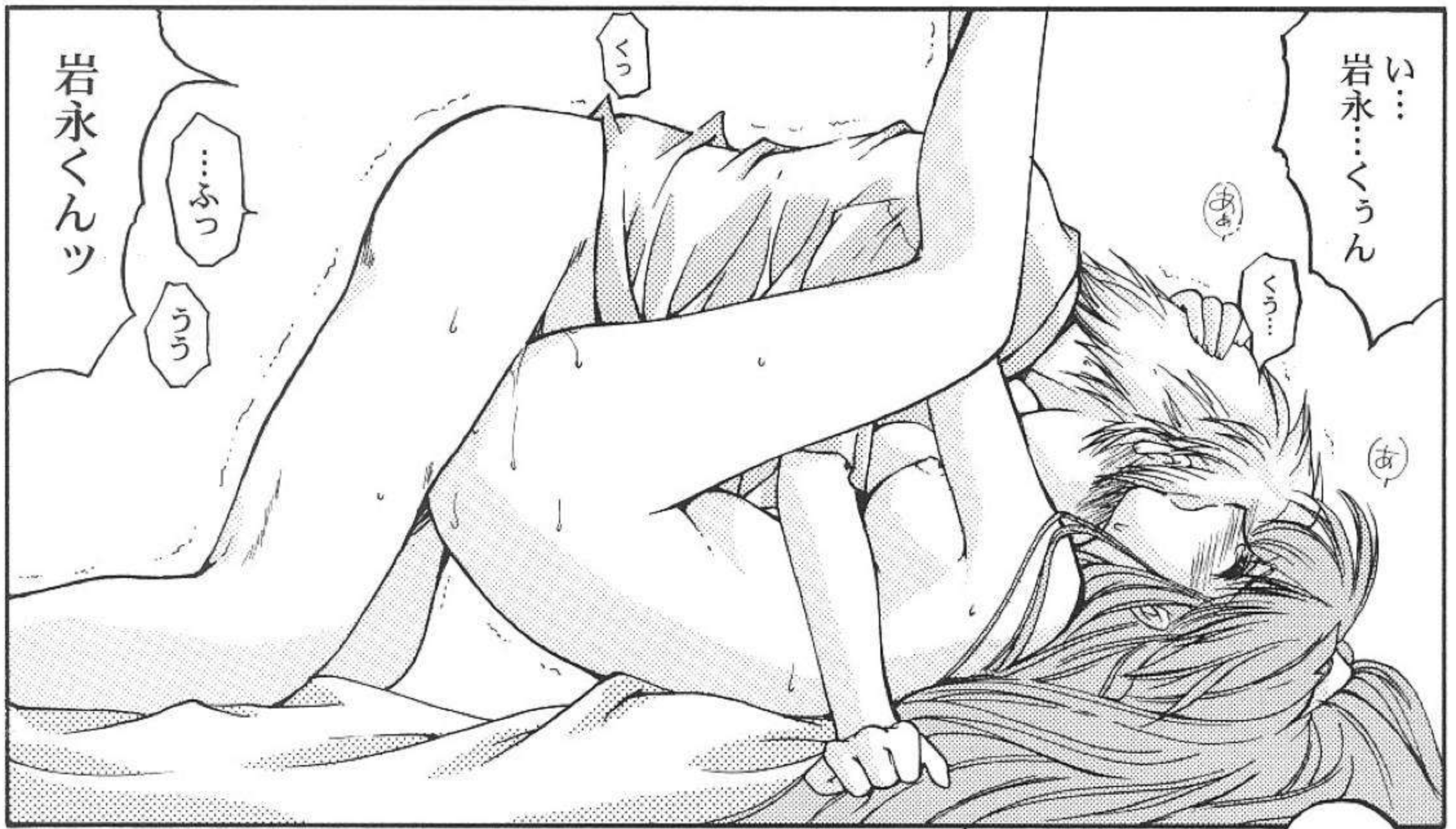
あ……あ……あ……



わ……
わたしっ

やっぱり
恥ずかしいっ！





い：
岩永…くうん

岩永くんツ

…ふっ

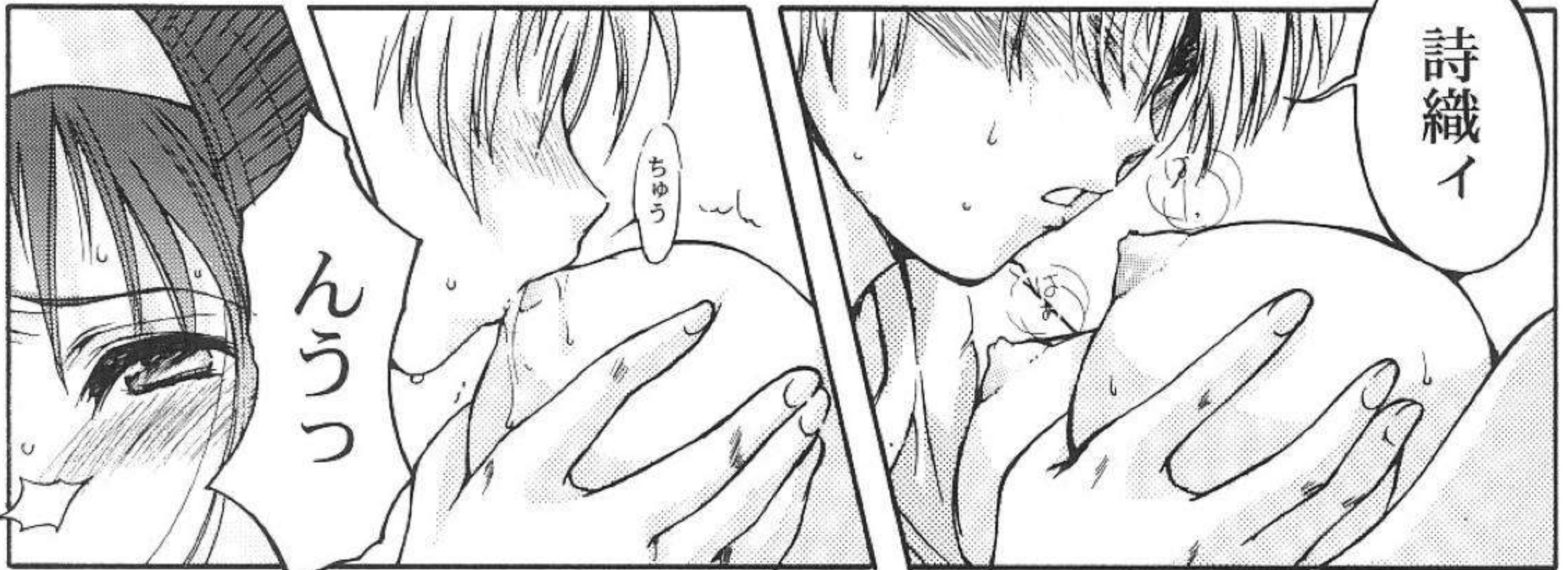
うう

くう

あ

くう…

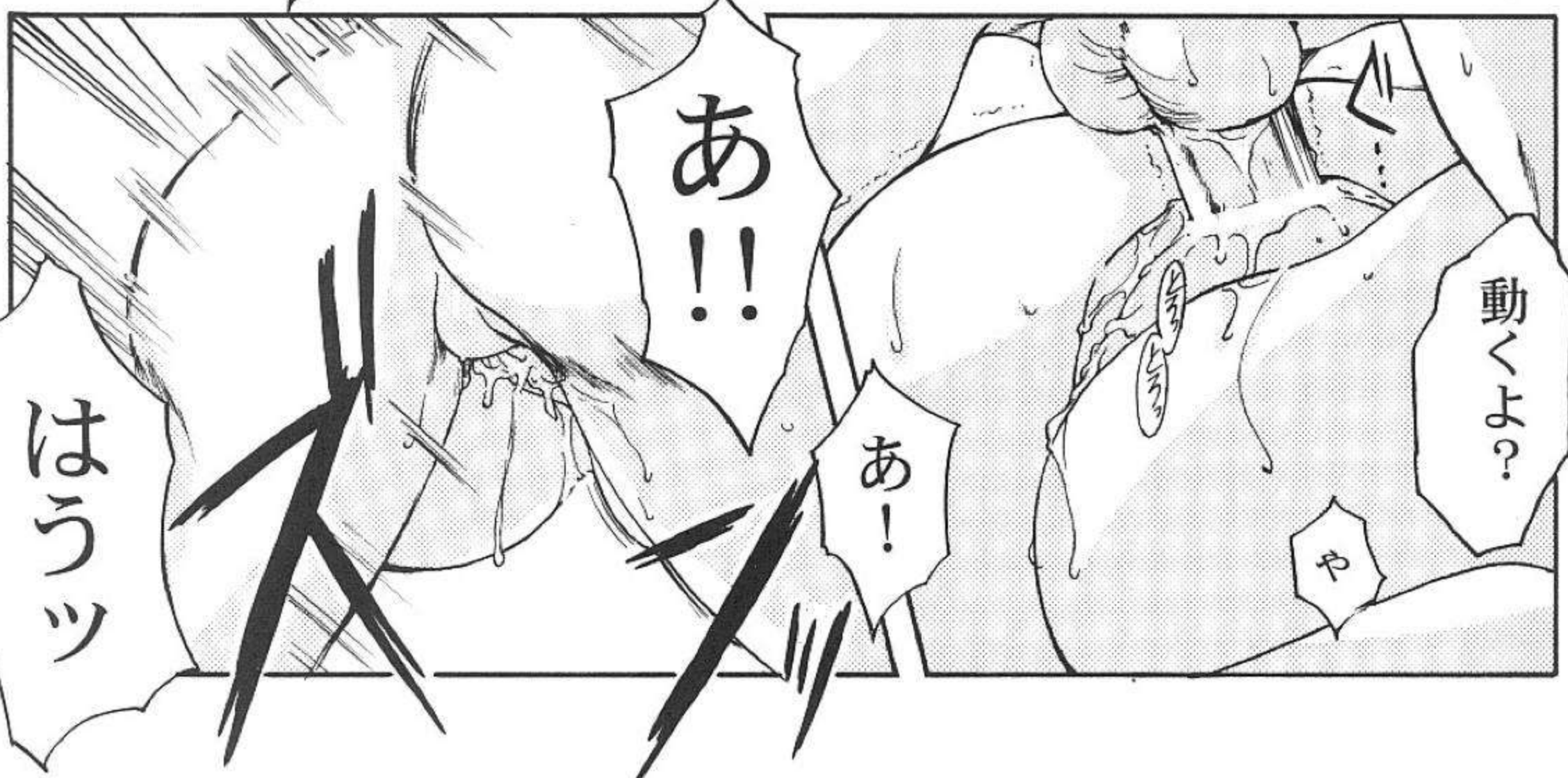
あ



詩織イ

んごう

あ



あ!!

動くよ？

あ!

はうツ

や

詩織ツ

好きだツ
好きだよツ

あ

あ

あ

あんっ

……いわ……な……

……んっ



詩織…
気持ち…よ…すぎ

俺っ

俺っもう!!

だっ

え…



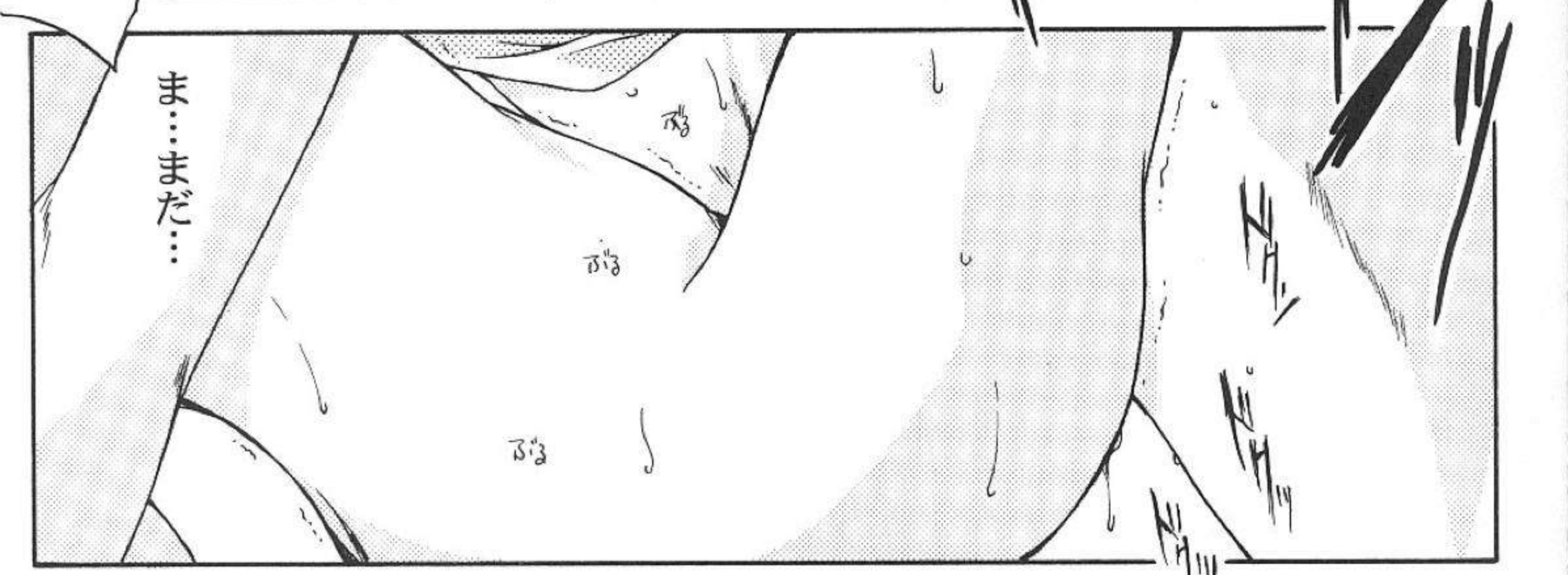
でるッ!!

だめっ

まだ…私…

あ!!

!



ま…まだ…



い…
痛く…なかった？

岩永くん

初めてだよね…なんかわかる

う…
うん…

そか…
よかった…

お…おれ…
うまくできな…くてっ

なんか…っ
ごめん…な…

島田くんみたいにじらしたり…そういうのなくて——

って……やだ私
岩永くんのこと

誰かと比べたりしてっ

……岩永……くん……？

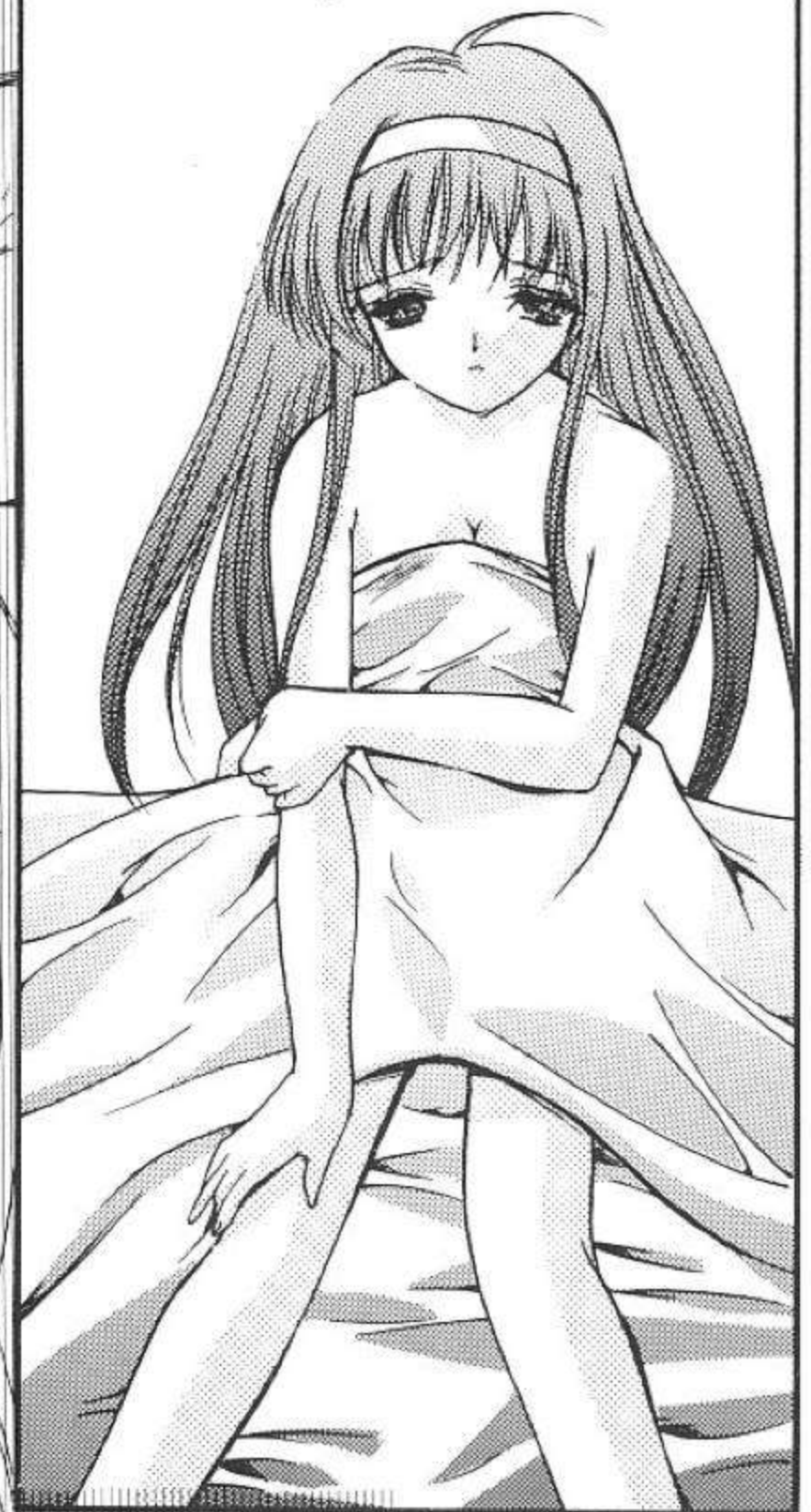


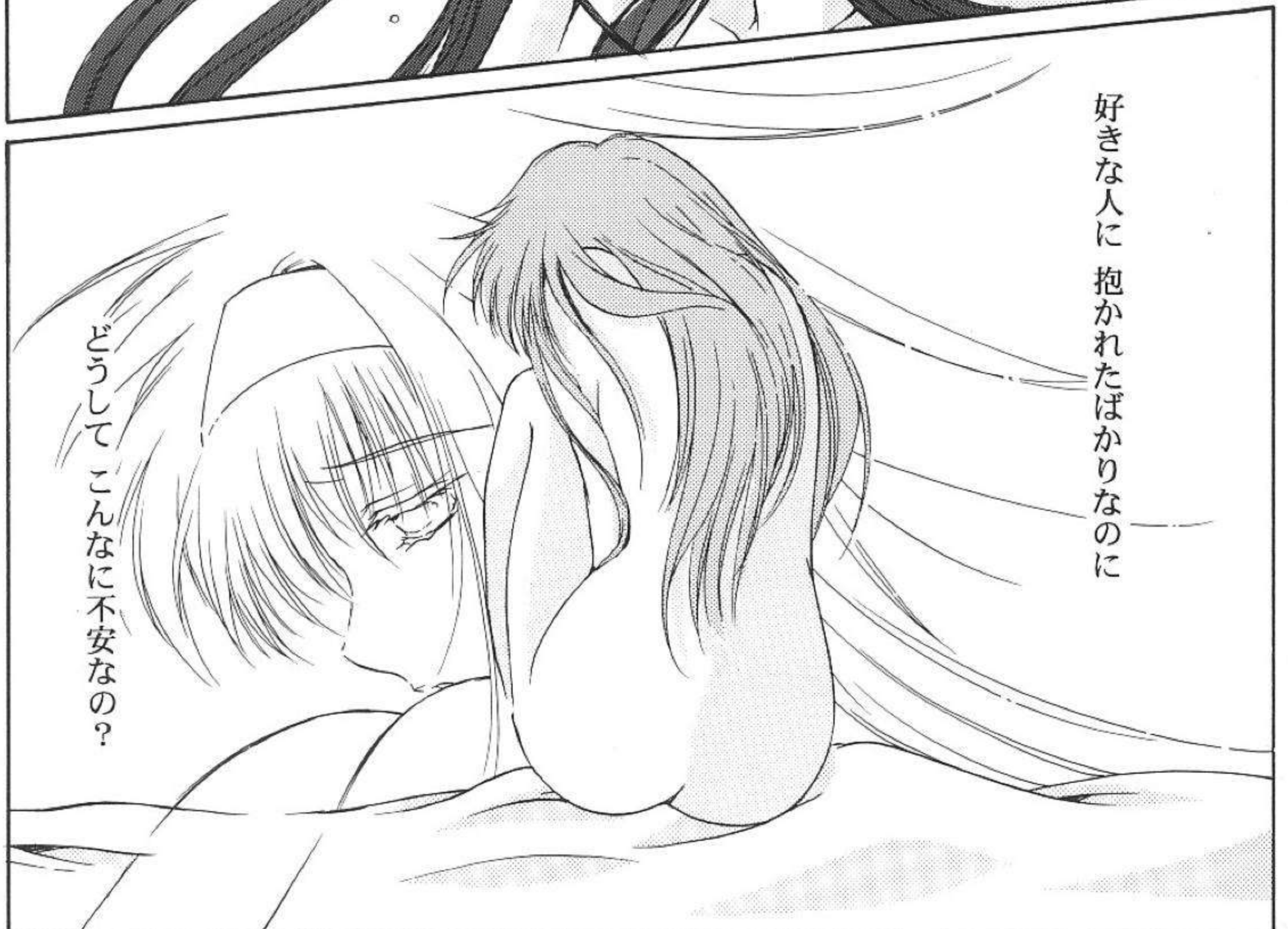
私の初めて……は……

突き上がってくるこの寂しさはなんだろう

幸せなはずなのに

おきん





好きな人に抱かれたばかりなのに

どうしてこんなに不安なの？

こわい…の…

ひよんひよん



あ…



あ…んん…

あつたか…くて



きも…ちい…

わたし…

あ…

は…

わたし…



ふあっ

んっ

んあっ



岩永くんが——いるのに——!!

んあっ

とまらない

あ

んっ

やめなまきや

んあ

だめ……だめ——なのに——!!

もっと深く

ああ

あ

ああっ

もっと

もっと

足りないんだろ？



え?



誰!?

ピンクの乳首
たちっぱなしじゃん

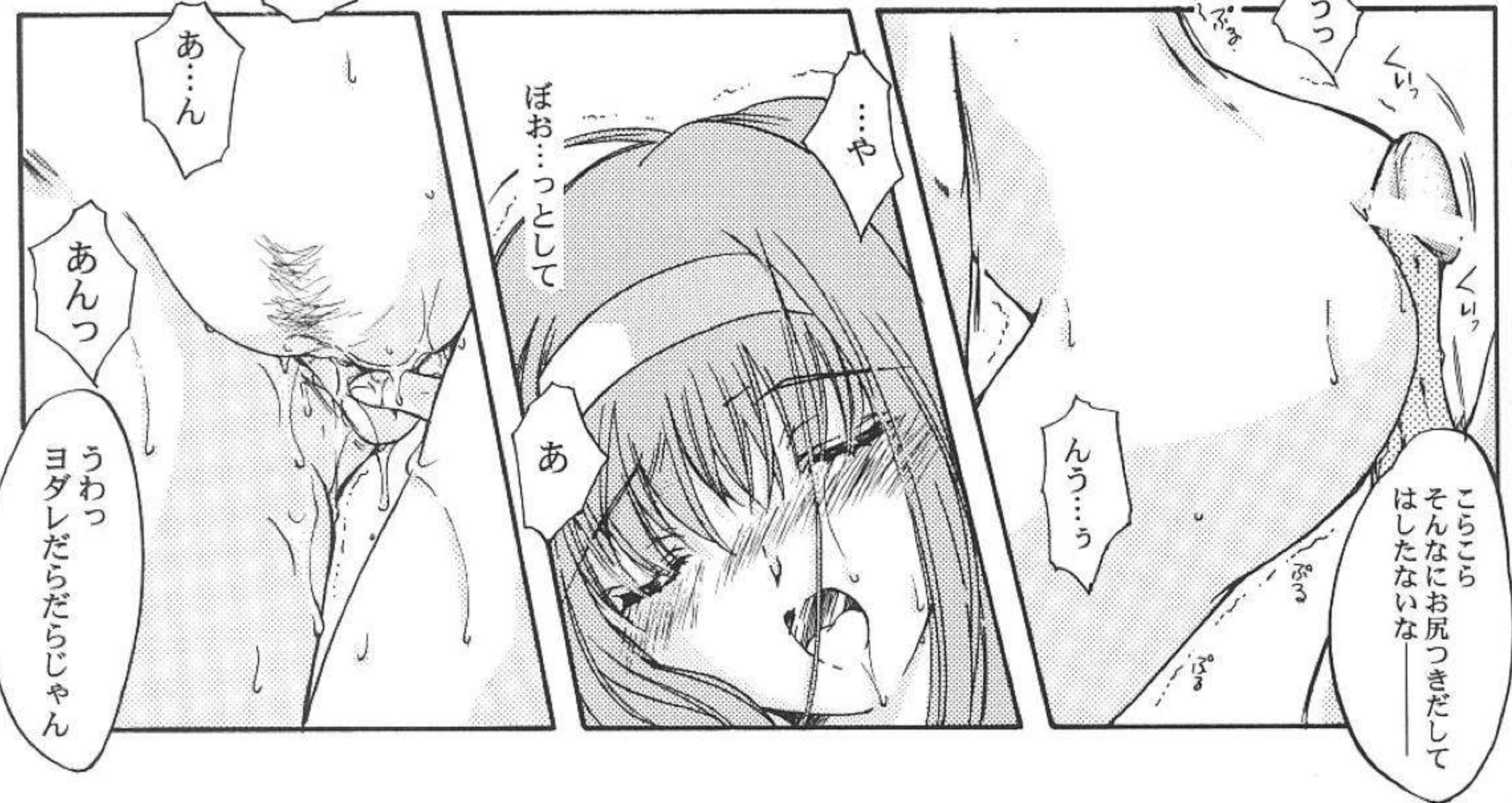
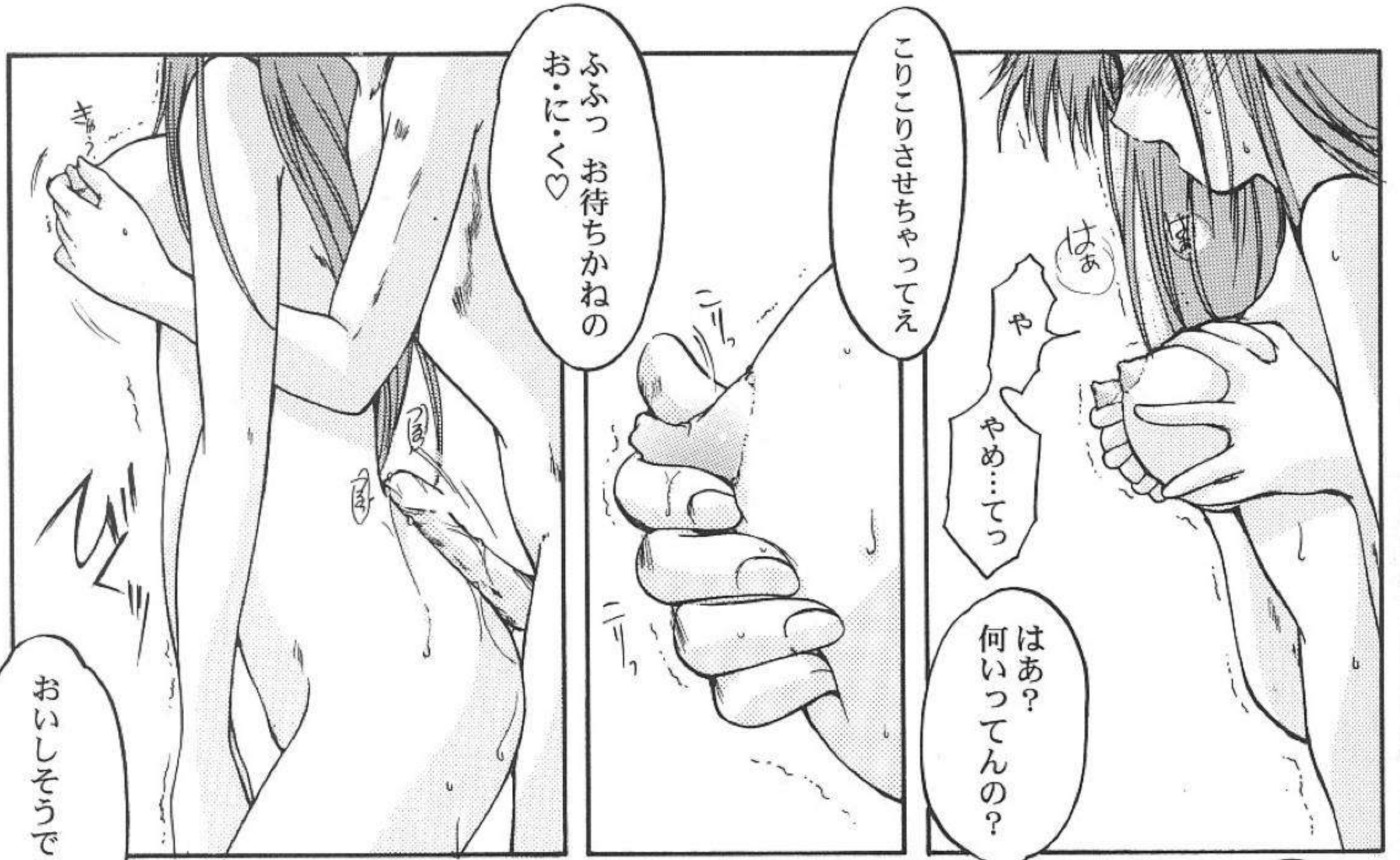
岩永くんじゃない!?

あんな子供みたいな
セックスで
満足できないよねえ



詩織
イけなかったしねえ

なっ



詩織の体が
こんなに男慣れしてる
なんて意外だなあ

そ…

「なにも知りません」
みたいな顔しちゃって

詩織のクリちゃん
俺のチンポが
犯されそうだよ

そん…っ

な…っ…

処女のクリトリスが
こんなにエロい訳
ないよなあ？

あ…っ

あは…

だめえっ

わたし…
あそこっ

ちがっ

はあ

ち…めっ

わっ

わた…しっ



こっちはもちろん
初めてだよね？

！

やっ

やめ

うわーっ



まじかよ！
お尻もオツケーなわけえ？

ちっ

ちがうのオツ！！

いったいどんだけ
勉強済みなんだよっ

前も後ろも
優等生とはね！

指より
こっちの方が食いたいだろ！

やあっ

やああ



もつと
正直になって

嫌いになんか
ならないよ

好きだよ

詩織

…あ…



好き…

はっ

だから—



こんな…

ほしい

ほしい

こんな…わたしでも

ほしい

ほしいの

は

好きでいてくれる？

くば…あ…

…あ

…あつ

あッ

わたしたち…いま

あ

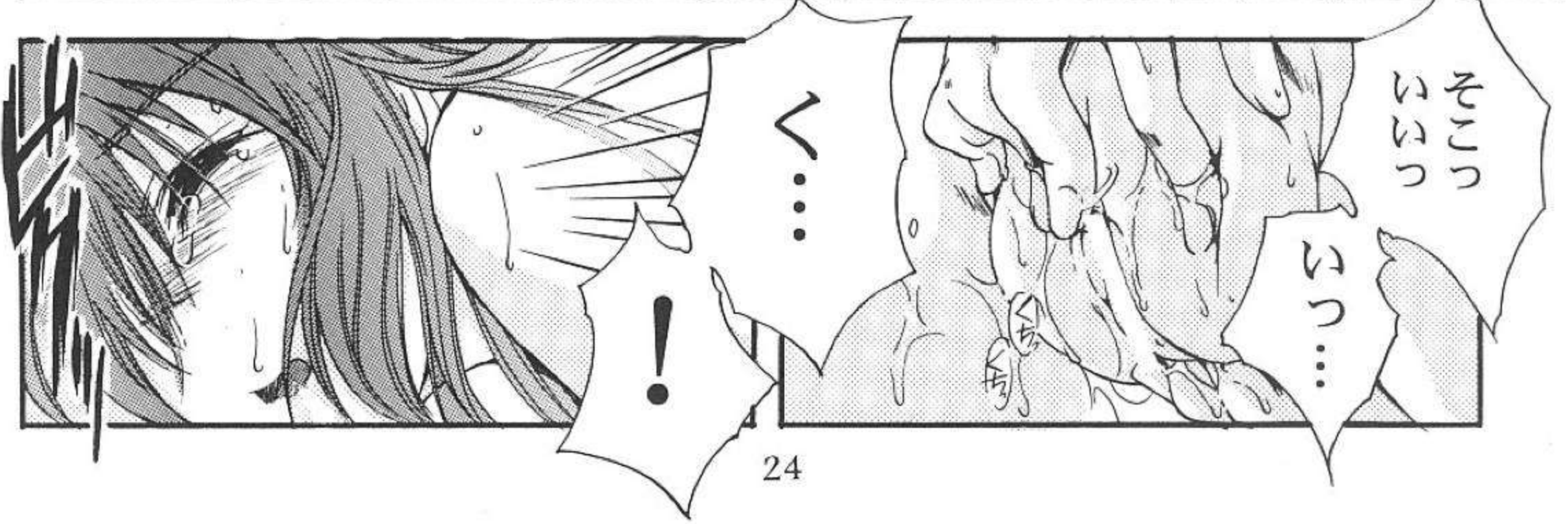
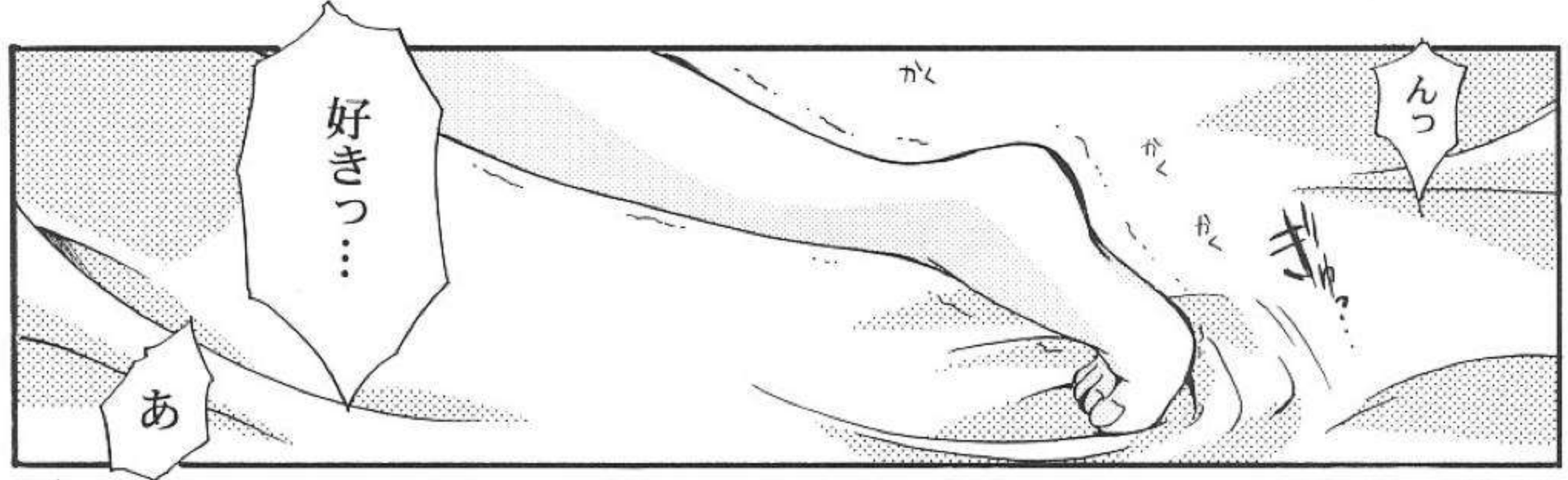
いいッ

幸せだよね？



気持ちいいよオ



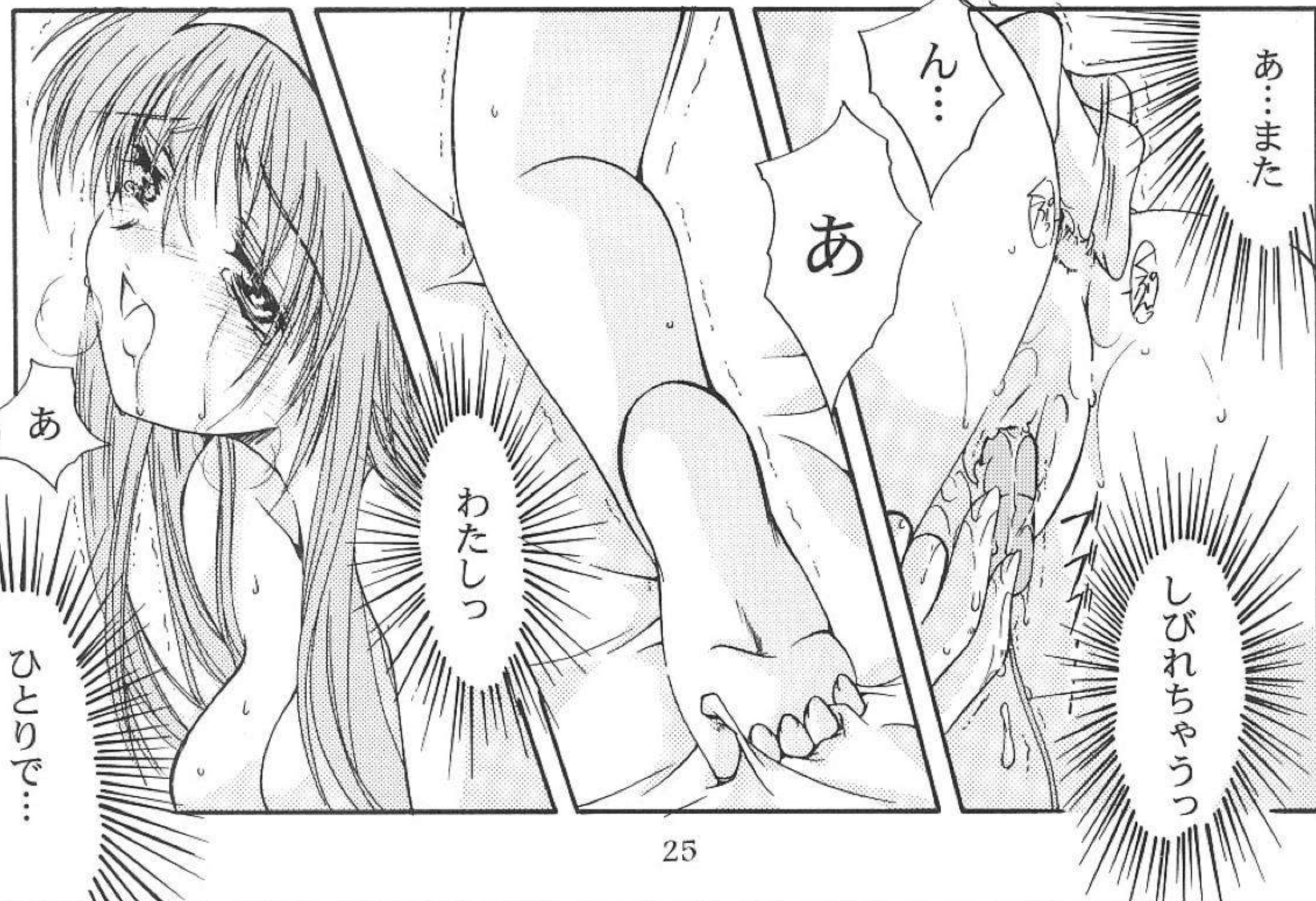




くじくじくじ！



は...あ...っ



あ...また

ん...

あ

わたしっ

しびれちゃっっ

あ

カサッ...

なに…やってるの

あ…っ

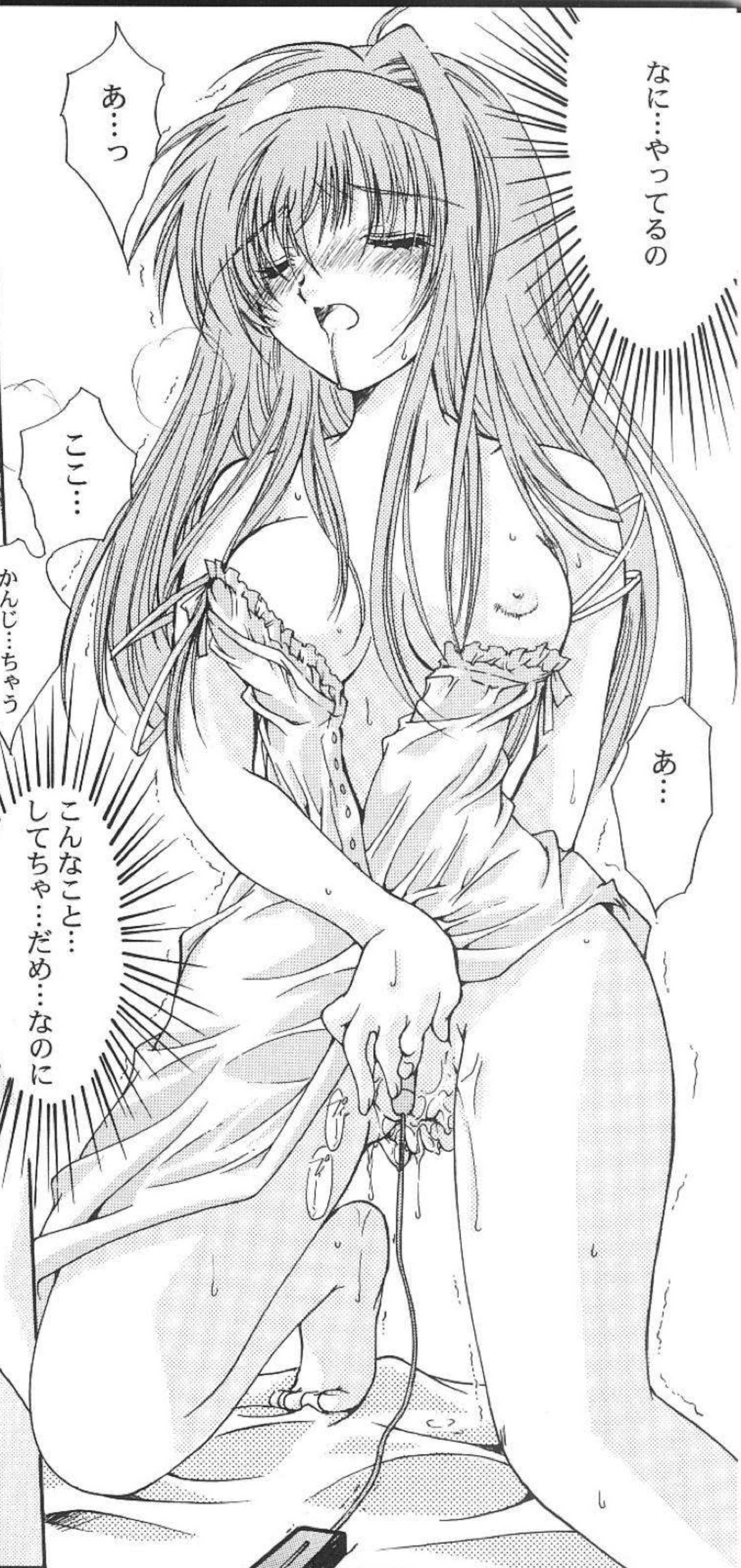
んんん…

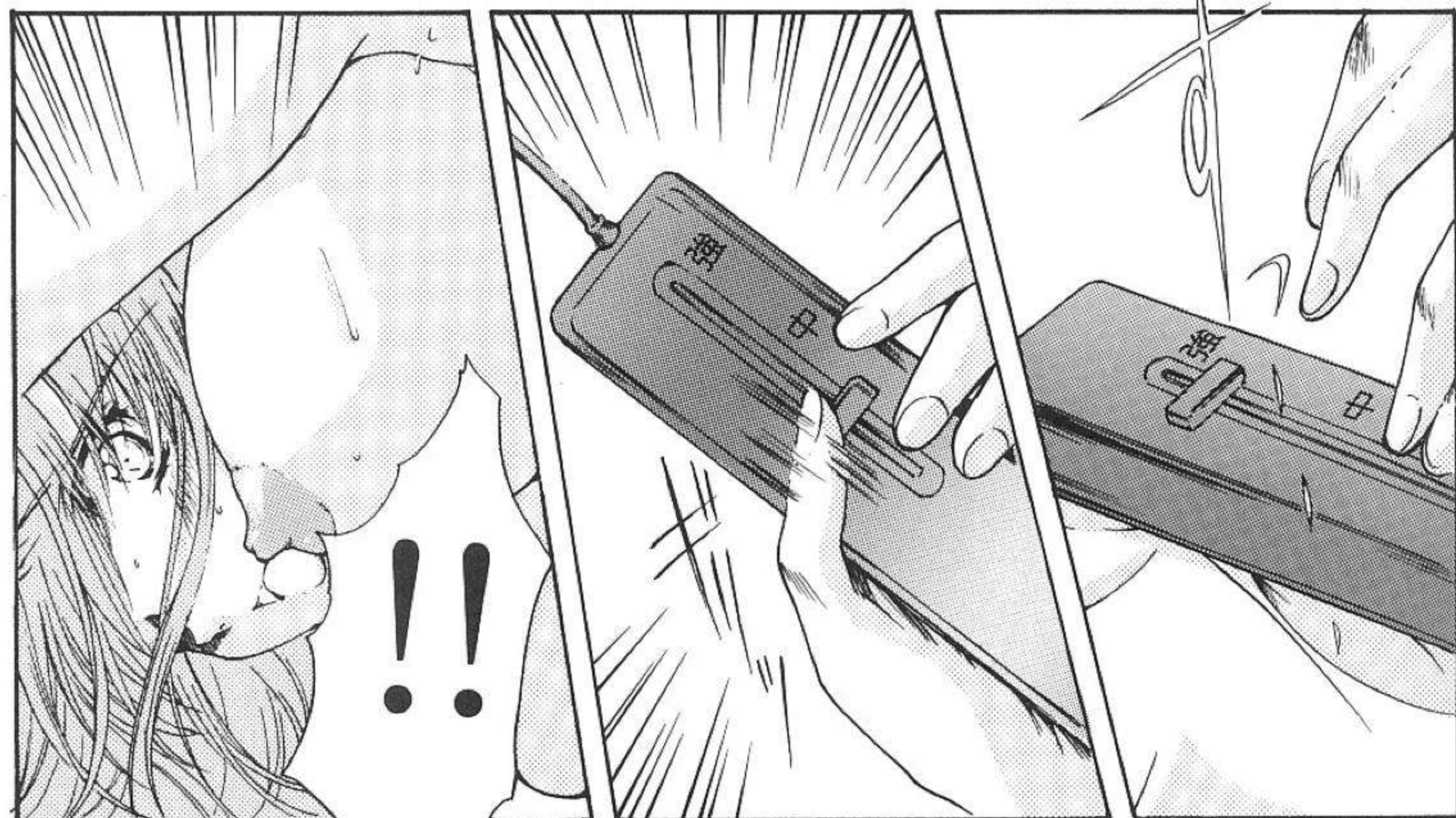
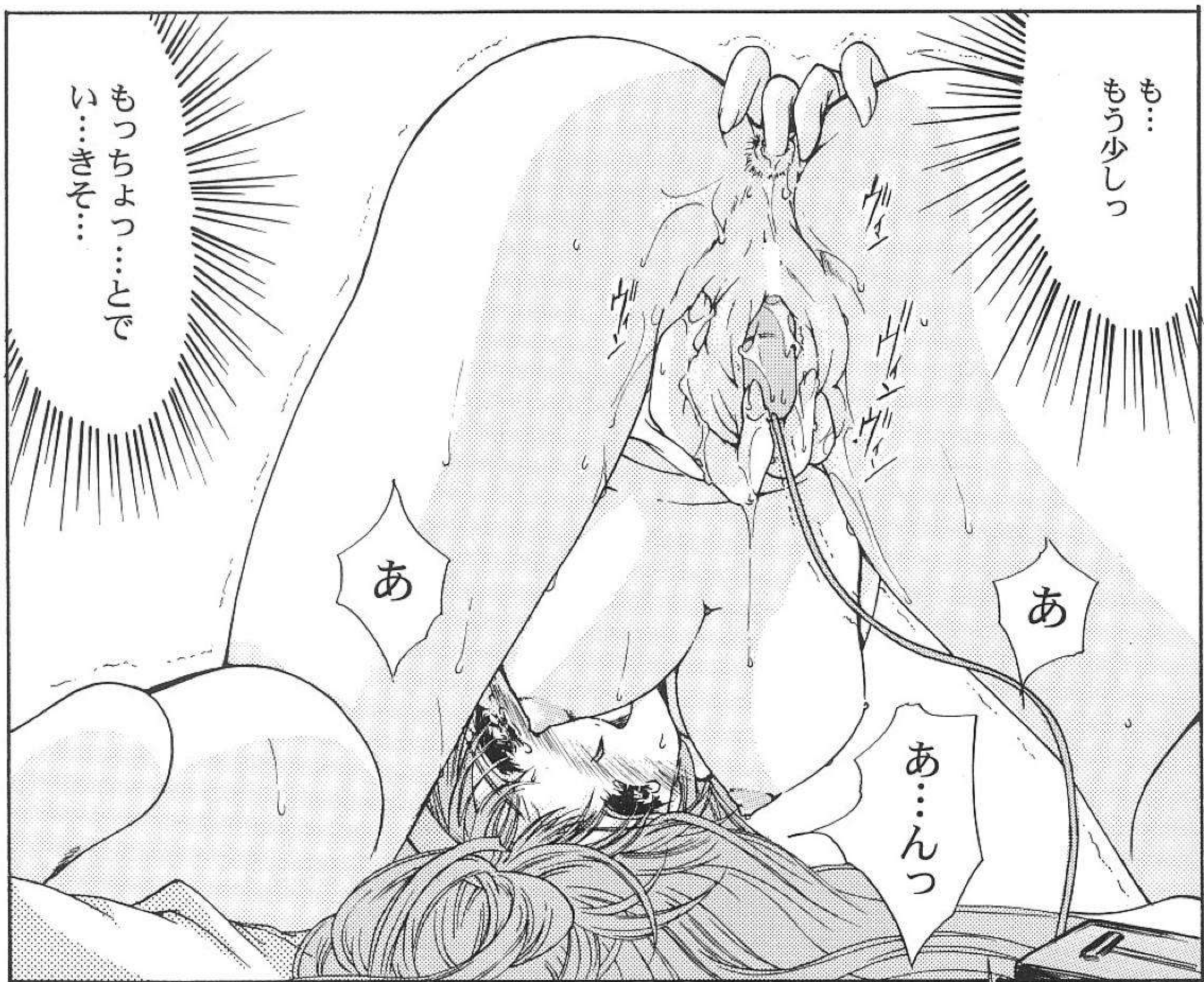
かんじ…ちやう

あ…

こんなこと…
してちや…だめ…なのに

あああ





はい
残念

人のものを
使う時は
ひとこと断ってほしいなあ

アハ

……あ……

アハ……

……ああ……

助けて——

昼間のじゃ
足りなかったわけね

こんなものまで
使っちゃってさ

ち…がっ

俺をまぜてくれないなんて
いじわるだなあ!

!

あ

はわっ

ほら
詩織ちゃんの
しほりたてのジュース

心のくすぶりに

自分で出した分
おいしいだろ?

体だけが応えてる

…んうっ!!

こんなこと見られて

あ…

あのっ…
わたしっ

恥ずかしくて
たまらないのに

わ…わたし

ご…めん…なさい…
勝手に使ったり…して…

どろどろ…熱いの溢れて—

で…も
あの…

あのっ
わ…わたしっ

とまらない

とまらないの…

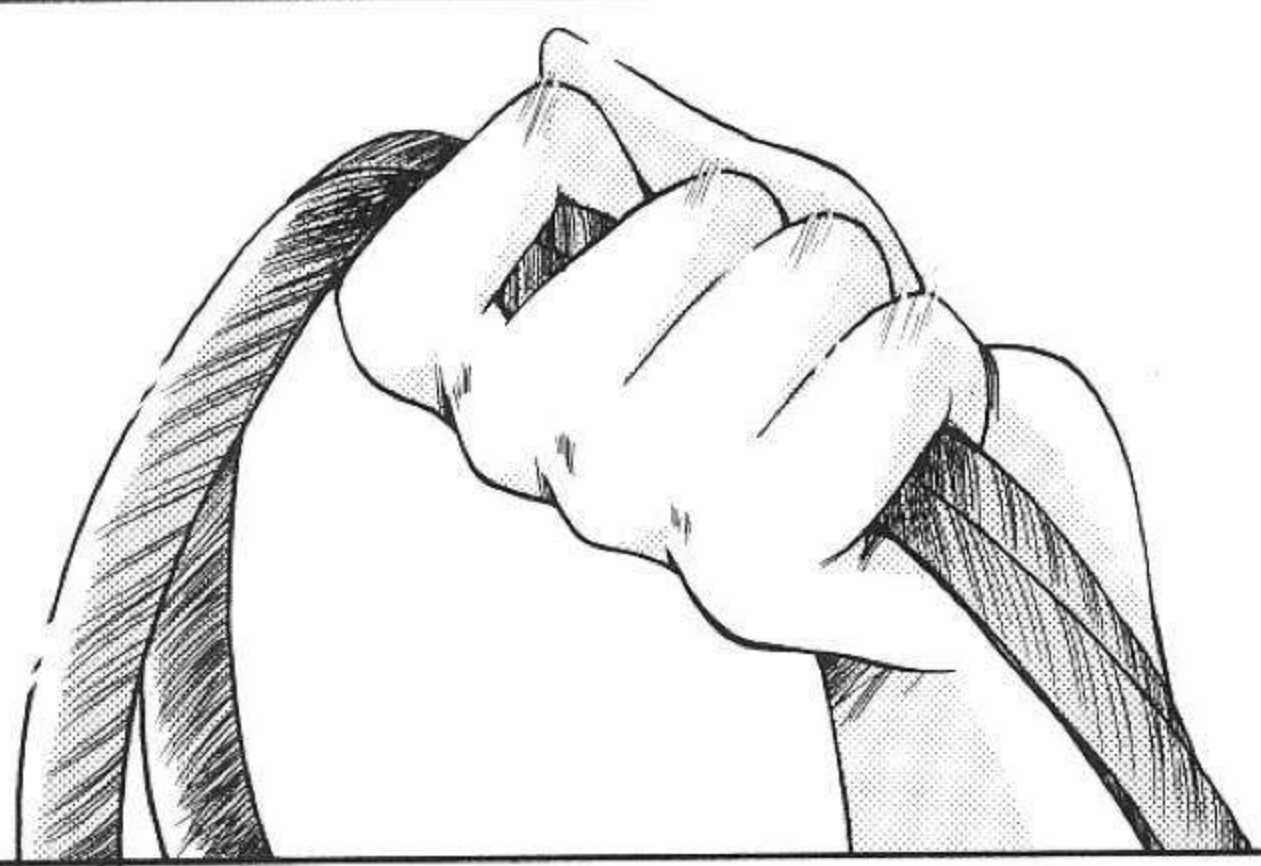
まだっ…
最後…まで…





だれか私をとめて

……仕方ないなあ



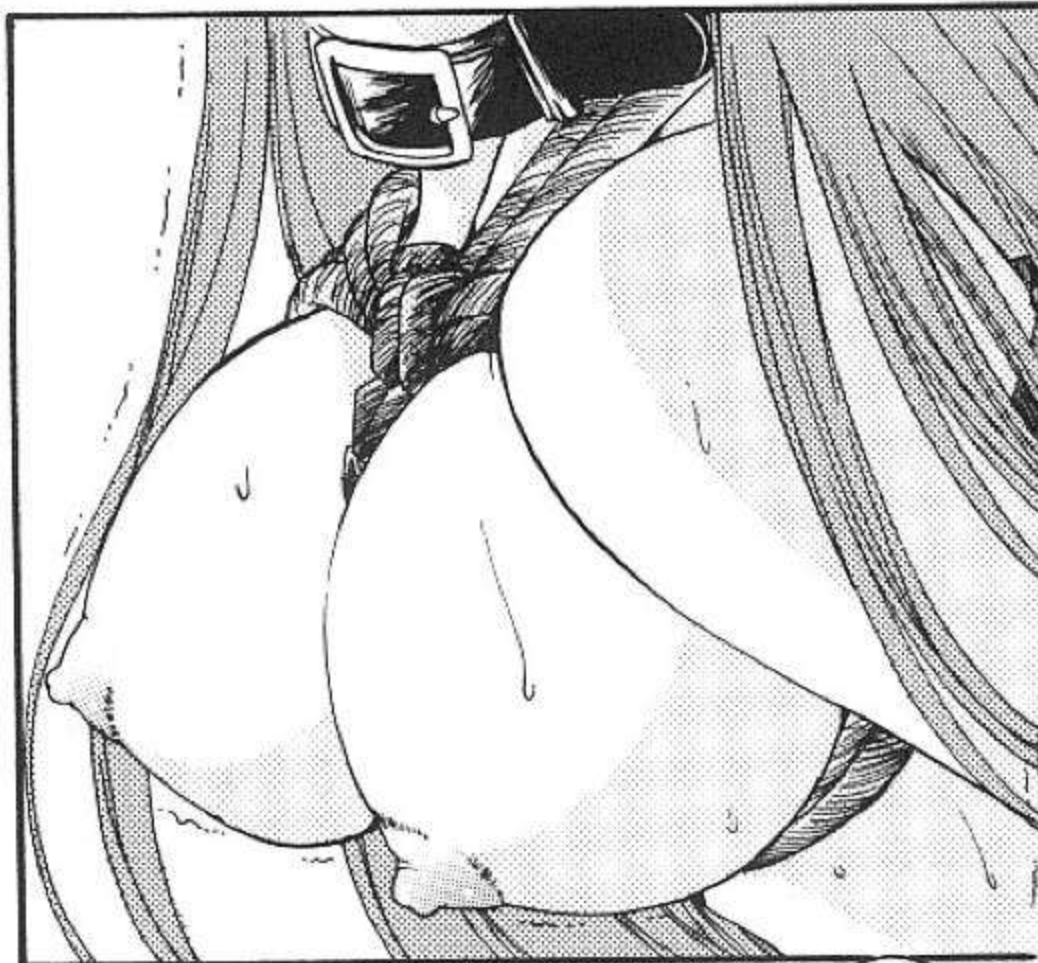
イワズラ好きな
お姫さまには



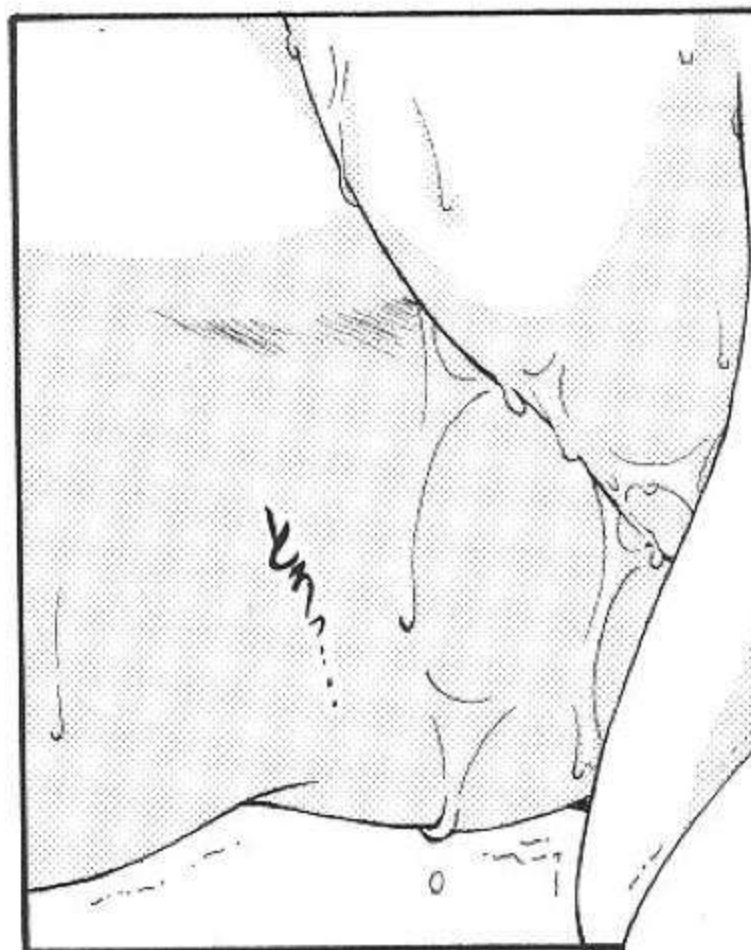
本当の
王子様がきつーく
おしおきしないとイケないね



できたよ
詩織ちゃん



どんな服よりも
これが似合ってるよ

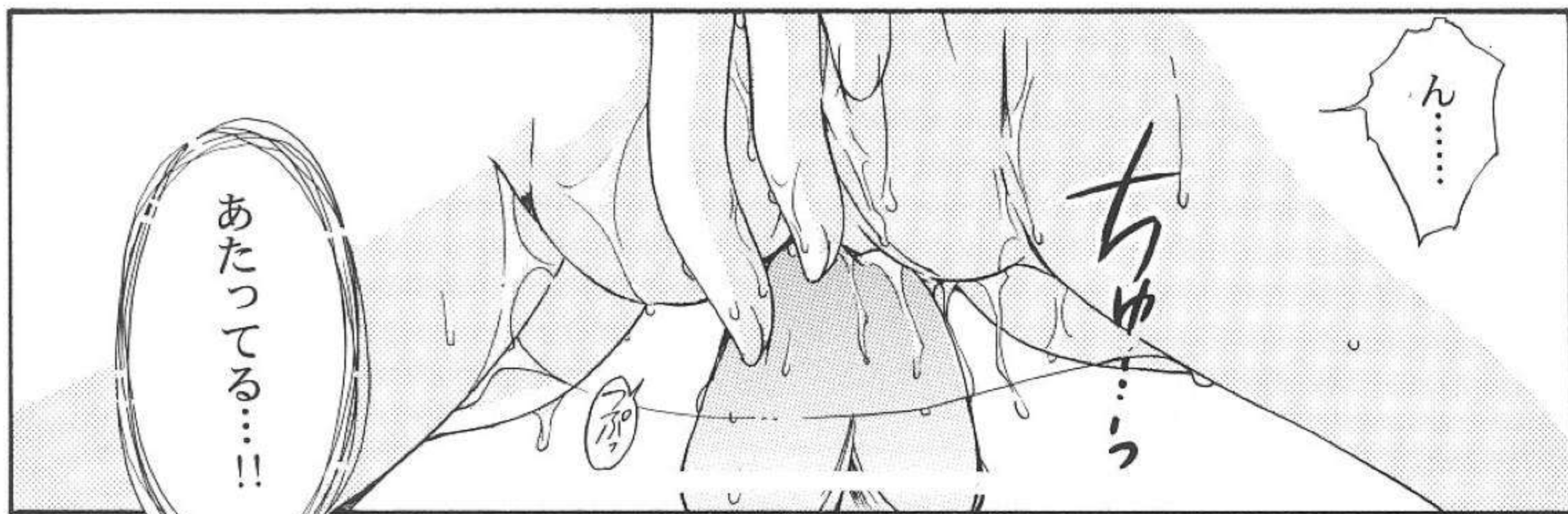
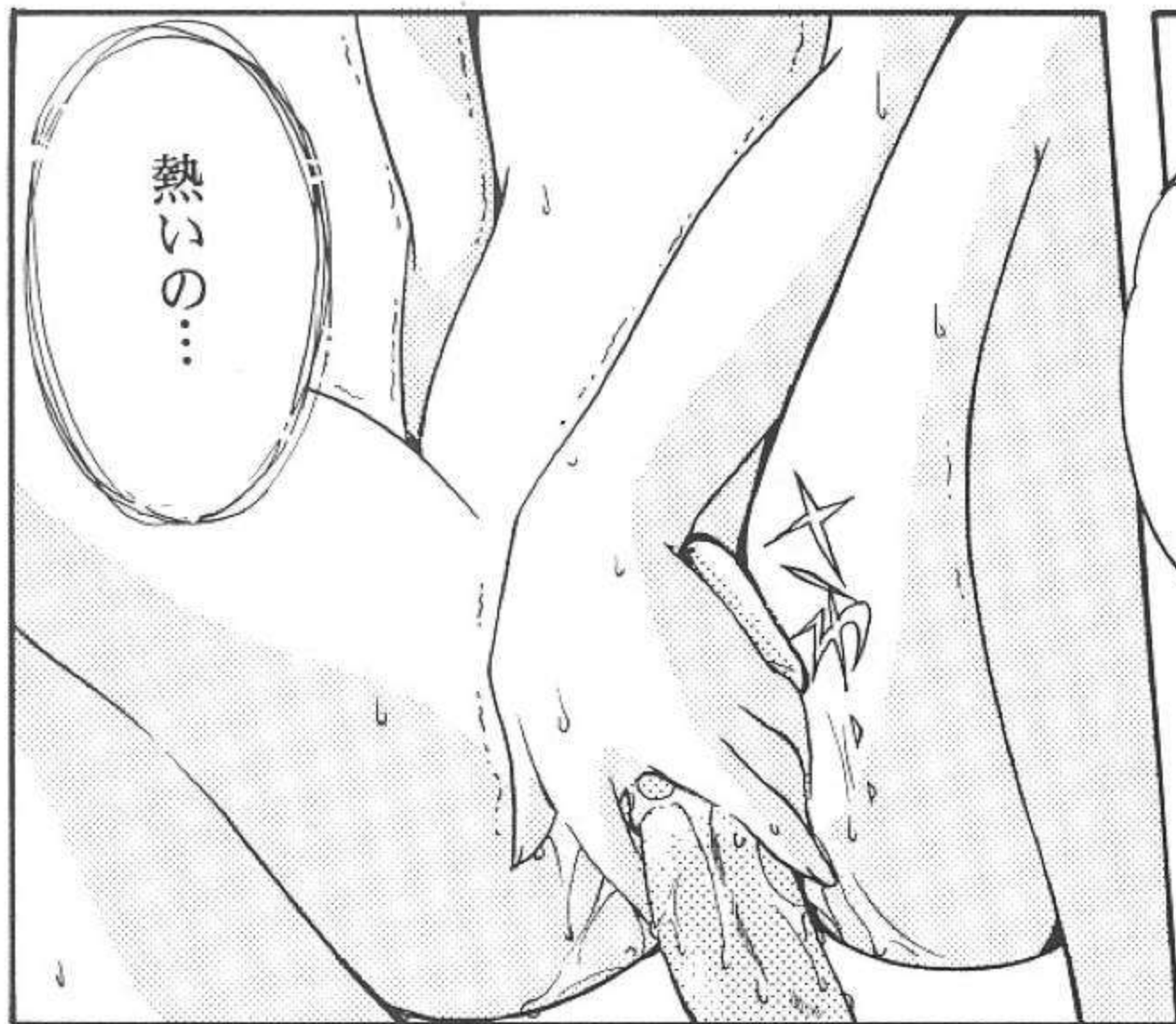


さて

おまぢかねの
おいしいおやつ
の時間だよ



…あ…





詩織……!

起きてるかい?



え



岩永くん!?

あ

そういや
雨、いつ
やんだんだろー



俺…このままじゃ
だめなんだ

今日のこと…
わかったんだ

なんか…眠れなくてさ…
ちよつと話でも
しようかな——…なんて



そういえばさ



そ



…えと

昔はよくこうして
窓ごしで話したよね



くだんね—
ことばっか
だったけど



夜中なっても
いつまでも話してたから

次の日起きらんなくて
焦ってたっけなあ

なのに詩織は
遅刻ダツシユなんか
なしだったよね—

寝てるかな

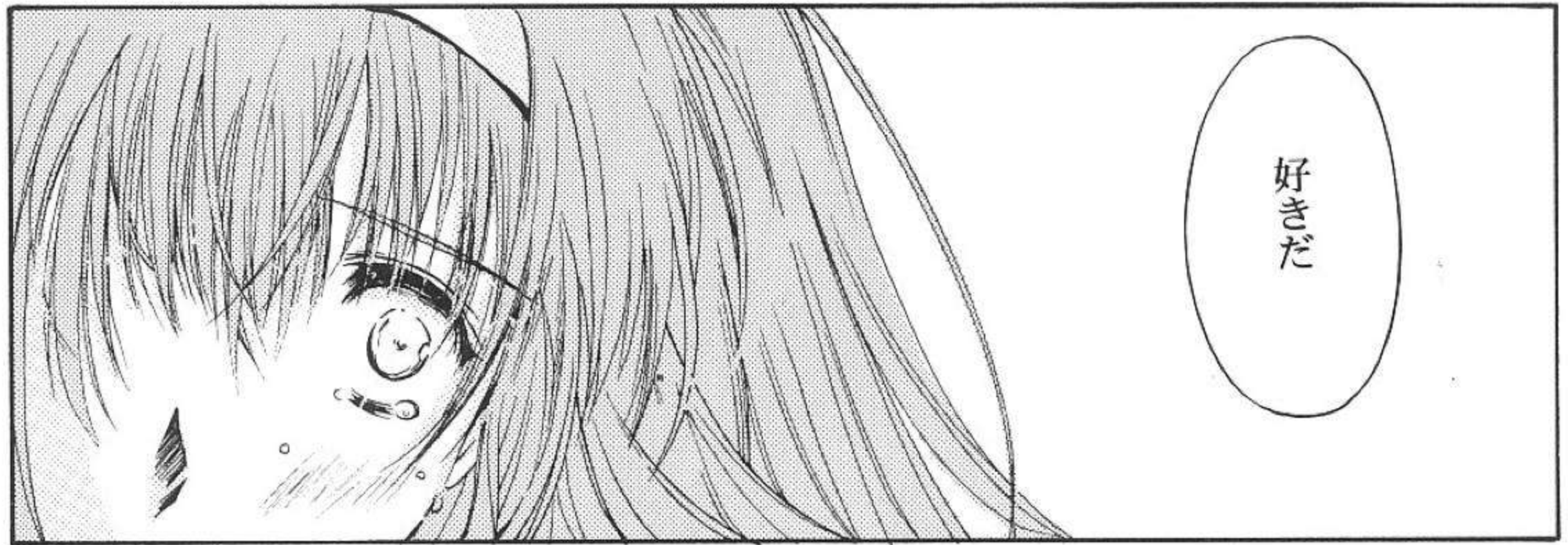
.....

—



俺さ

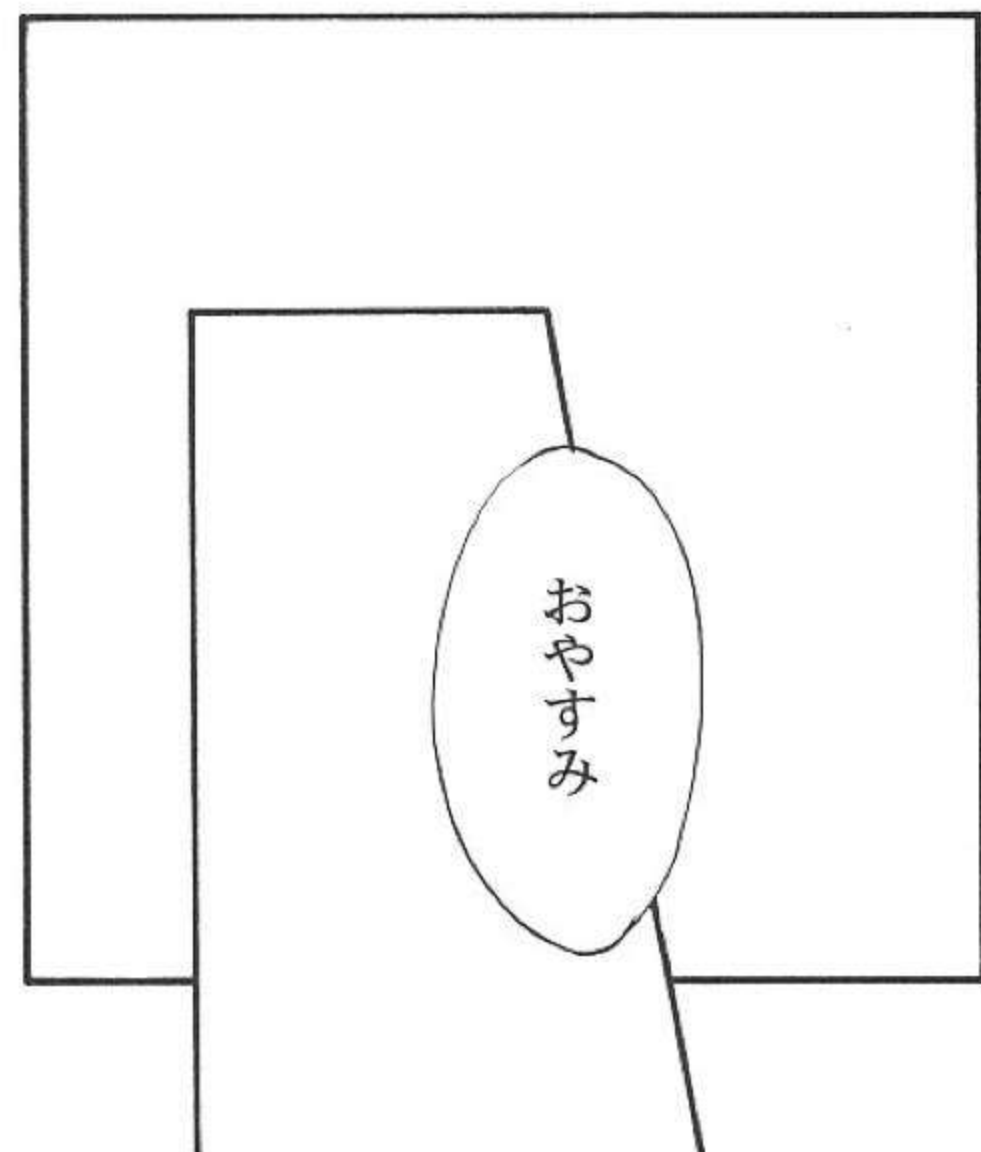
詩織のこと



好きだ



詩織のこと
これからずっと…
守りたいんだ



おやすみ



じゃー

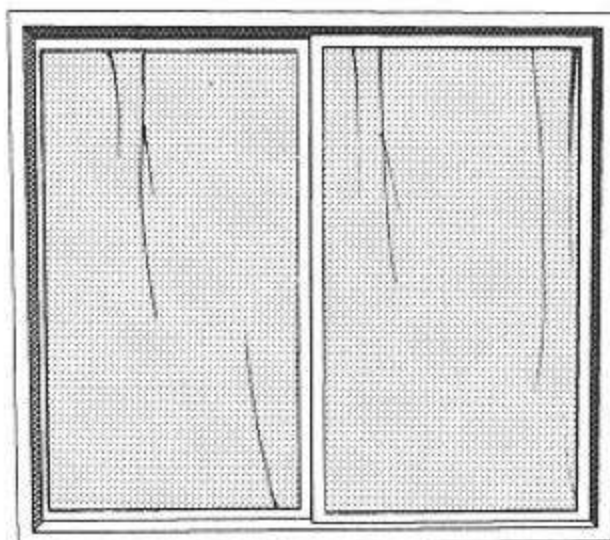
俺も…寝るわ





守って
もらおうじゃないの

白馬の王子様に



ほらほら
大きい声だして

今ならすぐ
かけつけてくれるよ

やあ...

やっ

とっておきのシヨールを
見せつけてやるうぜ

やっ

やめてっ

お願いっ
カーテンを……っ

みんなの憧れの
お姫様は

天から舞い降りた
理想のご主人様と

ケツでつながって
幸せに暮らしましたとさ！

やめて

お…ね…が

ほらっ

いい声で
鳴けよ!!

あ

っ…んんっ

!

んんっ

我慢しないで
声だせよっ

—いやッ!!

所詮
お前も俺も
変わらないんだぜ

!?

な…
なに…言ってるの!!

あ

俺のチンポで
感じながら

あなたなんかっ

あなたなんかと
一緒にしないでっ

あう

岩永のこと
考えてるだろ?

岩永を犯しまくって

違う!!

汚しまくって
気持ちよさに溺れてるのが

こんなの本当の私じゃない

おまえ
藤崎詩織なんだよ!!

いつそこのまま本当に

狂ってしまったら





夏に降る雪のようにも見えた、その色のない灯は、午前0時の鐘だったのか





壊れた歯車は、奇妙な音をたてながら、またゆっくり廻り始める



朝、目が覚めたら

昔、見た蟬の抜け殻を思い出した

最後の夏休み
今日も暑くなりそうです



To be continued

Picture drawing	Hiroshi Aizawa
Chief Assistant	Tokky
Assistant	Sakuya
Typesetting	justfit

おとがきのよけもの。

- あいさつです。詩織第10章。いかがでしたでしょうか？
- 今回は、第9章の後ろに続きから始まるおきます。意味不明な方は、合せて読んで頂けると、うれしいです。
- というか、前回は、短かかた上に、かなり、フツツか世終わってしまったので、申し訳なかったです。本当は、ここまで描き上げてしまいたかったのですが... そんな語りネームは、一応あったのですが、全部捨て、新たに描きなおしました。その分、またページ数も戻らなくなってしまいましたが、自分では気に入っています。
- こういう話はずいぶんアプロ-干が、いつもある。まとめるのに苦労しましたが、自分なりに伝わりやすいように流してやってみました。難しかったけれど、とても楽しい作業でした。みなさんにも楽しさが伝わると思います。
- 今回の漫画もアシスタントさん達に、たくさん手伝って頂きました。最後の秒速バトルは、なかなかスリリングでした... ありがとうございます。ほんと感謝しています。
- スクヰールの度々なる変更に、大抵の迷惑をおかけして大友出版印刷様にも、感謝... です。大友さんには、本当に、この本はできてほしいと思います。ありがとうございました。
- 何年ぶりかで、新幹線の中でおとがきを書いています。のぞみ、速さ型... 大抵がホント近くあった気がします。とこそ、同じ車両に読売ジャイアンツの方がのびのびしゃりんですが... ほんか、みんなこいぞ (笑) 原かん。おとしさきですよ？
- というか、お時間もたくさんありました。さあ、さあ。おあいできまうように。

Hirosaki Aizawa
2003. 8. 某日.

詩織もとうとう十章を迎えました。

シリーズトータルで1-10章の11冊（四章が上下に分かれていますから）、外伝1冊の計12冊。だいたい1年1冊ちょいのペースで発行されていることになります（個人的には1年2冊以上のペースにして欲しいのですが…（笑））。

まあ、あいざわひろしのペースはともかくとして、イベントで一番良く聞かれる質問、「いったいいつになったら終わるんだ」について、ここでちょっと触れておこうというわけです。

ただし、これは、あくまで原作の話で、実際にあいざわひろしがコミックにする際には当然、膨らんだり、縮んだりしますから、実際にどうなるかは僕にはさっぱり分かりません。

原作者がいい加減なこと書いてやがる…ってぐらいの話半分な気持ちで読んでください。で、ヨタ話として、聞いてもらうこととして、その原作のどこまで消化したのかというと、これが大ざっぱに70%。

「残り30%？ この状況でちゃんと終わるのかあ!？」とか思う人もいると思いますが、安心(?)してください。少なくとも原作ではちゃんと終わってます。

(むろん、僕はちゃんと終わってると思ってるだけで、人によっては「納得いか〜ん」だったりするかも知れませんが。人それぞれ、お話の終わりに求める物は違いますからね)

ただし、現在の僕の原作、実はオリジナルの原作——ってのも変な表現ですが——とはかなり構成が変わってしまい、エンディングに至っては「全く違う終わり」になってしまいました。

というものです。

オリジナルの原作はあくまでフランス書院文庫に代表されるハードコアなエロ小説の構成を持った習作で、エンディングもその路線に基づいたものでした。

その最終章を書いてケリつけてから、僕にとっては「終わった」、いわば「あいざわひろしの好きにせいや」と思っていた物だったわけです。

ですが、コミック版の第七章で、原作の書き足しをするようにあいざわひろしに頼まれ、新章を書き下ろしたことで、再び「現在進行形の僕の作品でもある状態」に戻ったわけです。

そして七章の終わりが（お話的に）不安定になってしまったこと、さらに自分自身の中でキャラの深化が行われたこともあり、原作の構成では全く物足りなくなりましたのです。

そこで無駄に膨大な原作を整理し、さらにキャラクタを立たせるようにして、完全に後半部を書き直した物が、これから先、あいざわひろしが書く「詩織」の原作になるかと思えます。

言い換えるなら、ここから先の話はオリジナルの原作のテイスト…というかパーツを残しつつ、新しく書き直した、いわば「新・詩織」のパートとなるわけです。

これまたあくまで個人的にはって話ですが、現在の原作、オリジナルよりも遙かに構成が緊密になっていますし、個々のキャラクタもはっきりと自分の意識を持って立っており、遙かに面白くなっているのではないか…なんて自負していたりもします（笑）。

とは言っても、原作は原材料。

あくまで物語の原材料にしか過ぎず、これを料理して、味付けを行い、実際にお客の目の前に出す皿にするのは、あいざわひろし。

僕も自分の出した材料が、どう料理されるのかを楽しみに待つことにします。

それでは、またどこかでお会いしましょう。

某月某日 逆転裁判をやりながら
いわさきひろまさ

詩織 第十章

痛^らぎの代償

2003年8月15日発行

〒154-0067 東京都 世田谷区 喜多見駅前郵便局留
長浜方 HIGH RISK REVOLUTION

URL <http://www.highriskrevolution.com>

e-mail webmaster@highriskrevolution.com

印刷 (株)大友出版印刷

禁 無断転載・コピー

High Risk Revolution Presents

